



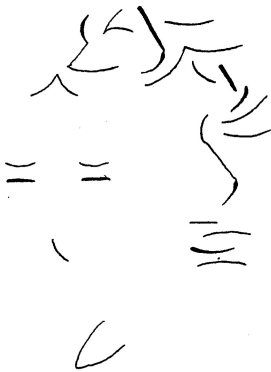
夜をこめて鳥のそらねははかるとも  
よに逢坂の関はゆるさじ

( 清少納言 )



春過ぎて夏来にけらし日妙の  
衣ほすてふ天の香具山

( 持統天皇 )



あしひきの山鳥の尾のしだり尾の  
ながながし夜をひとりかも寝む

( 柿本人麻呂 )



なげけとて月やは物を思はする  
かこち願なるわが涙かな

( 西行法師 )